

アニメツーリズムから見る地域振興

——聖地化するまち・日野市を事例として——

氏名 吉田亜月

本研究の目的は、アニメツーリズムとは何かを明らかにし、東京都日野市においてアニメツーリズムは地域振興の手段になり得るのかを探ることにある。本研究で日野市を焦点に当てた理由は、日野市が新選組や『薄桜鬼』ファンの聖地として知られているからだ。

筆者は新選組を題材にした『薄桜鬼』というアニメ作品（ゲーム）および新選組が好きであり、その興味をきっかけに日野市にある新選組関連施設を複数回訪れてきた。新選組ふるさと歴史館を訪れた際には、旅ノートに『薄桜鬼』のイラストやメッセージが多数残されているのを目にし、同作品をきっかけに日野市を訪れるファンが一定数存在することを実感した。このことから、日野市とアニメツーリズムの関係性を掘り下げたいと考え、本研究の対象として設定した。

研究方法はインタビューである。日野市役所産業振興課に勤める職員 2 人に話を伺うことで、日野市のアニメツーリズムの背景や、日野市におけるアニメツーリズムの特徴や位置づけを整理した。

インタビュー結果からは、日野市におけるアニメツーリズムは経済効果や一定の集客効果が得られることが分かった。当初筆者は、日野市はアニメ作品と定期的にコラボしていることから、アニメツーリズムに積極的に取り組んでおり、相互の関係性が成り立っていると考えていたため、想定していた結果が得られた。しかし、同時に 2 つの課題も浮き彫りになった。1 つ目は、持続性についてだ。アニメや作品のブームが過ぎると来訪者数が減少してしまう傾向にあるという現状がある。2 つ目は、アニメツーリズムが地域振興策の主軸となるまでに至らない点だ。日野市は度々聖地として注目されてきたが、アニメ作品自体が日野市そのものの舞台になっているケースは少なく、聖地巡礼の展開が著しく難しい。

また、アニメ施策に体系的に注力して取り組んでいるわけではない点も踏まえると、結果として、アニメツーリズム単体で地域振興の中心施策として考えることは難しい。つまり、日野市におけるアニメツーリズムは、地域振興の手段になり得る可能性はあるが、核になる部分がなく、地域振興の役割を果たすには至っていないというのが現状である。